

# 将来の日光はどんな姿に

## 「未来像策定事業」に取り組む

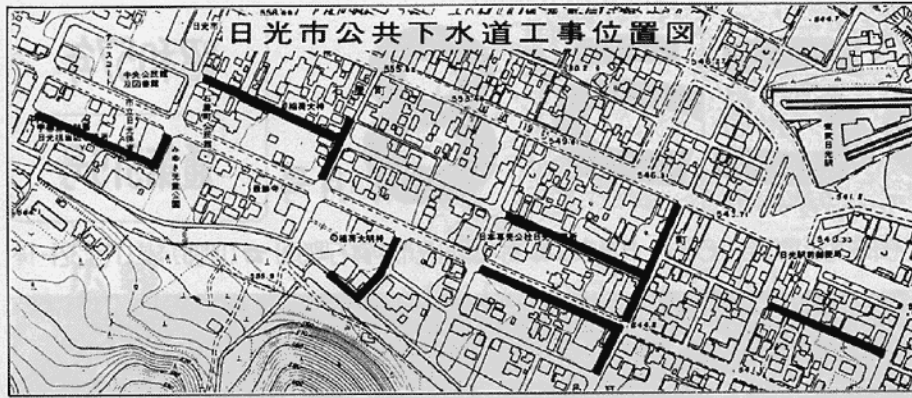
将来にわたる日光市の未来像、言いかえれば、日光市のあるべき姿、進むべき道が必ずしも確立されていなかったと考えられます。そのためには、長期的展望のも

とに、客観的立場と現裏面とを加味した日光市の目標を樹立しその目標に向って、施策を進め事業を実施する必要があると思われま

す。このような考えから、今年度の重点事業の一つとして、一千万円の子算を計上して「日光市の未来像策定事業」に取り組んでいます。未来像といっても、実現性の少

ない夢物語りを作るのではなく、五年十年といった中期的な計画を含めたもので、専門的知識も必要なことから、外部に業務委託をして事業は進められます。さきごろ決まった委託先は、神戸ポ

ートピアなどにもプラン作りで参画し、毎日デザイン賞を受賞した浜野商品研究所（東京都）という専門の



### 下水道工事に ご協力を

相生・松原・石屋・  
御幸町地内で工事中

市の公共下水道工事は、関係者のご協力をいただき、計画どおり順調に進んでいます。今回も、相生町、松原町、石屋町、御幸町地内で、下水道枝線千六十四回の築造工事を九月三十日までの予定で行っています。工事期間中は、地元住民や通行者に何かとご不便をおかけしますが、下水道を推進し明るく住みよい環境づくりのため、ご協力くださいようお願いいたします。

### 新しい観光の目玉に

#### 神橋の夜間照明八月下旬に開始

新しい観光資源の開発を進めている市では、この事業の一環として「神橋」の夜間照明を行うことになりました。神橋の架かっている大谷川の岸

に、約三百万円をかけてナトリウム灯二基を取り付け、神橋を照らすもので、すでに先月からは、テスト照明を実施、車の運転者への影響や効果的な照明をするためにライトの位置を変えたりの実験を重ねています。

しかし、この地域は国立公園法で特別保護地域に指定されているため、照明施設を設置するには環境庁の許可を受けなければならず、本格的な夜間照明が開始できるのは八月下旬ごろになる見込です。夜間照明は、冬期間を除いて日没から九時ないし十時ごろまで毎日行うことになっており、大谷川に浮き出る朱塗りの「神橋」は、市民や観光客の目を惹きつけてくれるので

「徳川実紀」によれば（六月十五日）日光山この八日より十三日までの大風雨によって、山水押し出し石垣崩壊し、目付小屋圧倒され、目付代奉はりし使番田中三左衛門高成同心十人溺死し、寺一宇にて九人、山麓の市中にては百四十余人死したるよし注進す。

### 表紙シリーズ

#### 市民の中に

#### 生きたる文化財

#### 稲荷川

#### 水難供養塔

寛文二年（一六六二）六月、稲荷川の大洪水によって古稲荷町が流失の危機に遭った。当時の古図によると、稲荷川は山内より流れ、さらにその東側に稲荷川一丁目から四丁目までと裏通りの二筋の町並みがあった。

「兎嶺秘鑑」によると、稲荷川の水源七滝の辺に古く湖水がたたえられていたが、この年六月十三日夜からの豪雨によって東側が崩壊し、満山に振動して激流が押し寄せ、川筋にあった町並が一瞬にして水にのまれたのであるという。